

今年の資料館は、このような文化財の活動をしました!



新指定 白川金色院経塚遺物

白川にある白川金色院跡の経塚から出土した和鏡や青白磁の合子・小壺などの優品を含めた計61点の遺物が京都府指定有形文化財に指定されました。

白川金色院跡は、藤原頼通の娘で、後冷泉天皇の皇后である四条宮寛子の創立した平安時代後期の寺跡で、現在は惣門や石塔群、鎮守の白山神社が残っています。



萬福寺塔頭跡の発掘調査

萬福寺の南側の黄檗市営住宅の辺りには、明治時代に陸軍火薬庫ができるまで、僧の住坊である塔頭が建ち並んでいました。

今回は市営住宅の建て替えに伴う発掘です。この発掘調査では、華蔵院と呼ばれる塔頭跡と、その後に建てられた陸軍宇治火薬製造所の遺構も部分的に見つかりました。



小・中学生の文化財見学会

宇治市文化財愛護協会と共催で、11月29日に第18回の文化財見学会を開催し、15名の参加がありました。

源氏物語千年紀にあたる今年は、宇治上神社や源氏物語ミュージアムなど、宇治十帖の古蹟を巡りました。宇治は、五十四帖ある源氏物語の最後の十帖の舞台となっています。



文化財防火デー

毎年1月26日は、文化財防火デーです。文化財防火デーは、昭和24年1月26日に法隆寺金堂壁画が焼失したことを契機とし、毎年各所で防火訓練や防火研究会を実施しています。

今年は、地域で文化財を守る文化財守り隊の制度ができ、その第1号となった菟道東中の厳島神社で防火訓練を実施しました。

『発掘宇治'08』

平成20年度 発掘調査・文化財速報



宇治の文化的景観「宇治川上流」



萬福寺塔頭跡現地説明会(8月)



文化財防火デー(1月厳島神社)



宇治の文化的景観「宇治橋」



宇治川太閤堤跡現地説明会(8月)

宇治市歴史資料館

宇治市歴史資料館

宇治の文化的景観

平成21年2月12日

重要文化的景観に 選定されました!

文化的景観とは、長年にわたる人々の生活や生業など、近年その姿を消しつつある伝統的で個性的な地域文化の動態的な保存を目指す、いわば風土の重要文化財です。

「宇治の文化的景観」は、宇治川に代表される自然景観を骨格景観とし、平安時代以来の街区を継承しながら発展した市街地と、そこに集積する茶業に関する個性的な文化的景観です。

今回は、宇治橋上流域の宇治川とその両岸に広がる市街地及び茶畑等を「宇治地区」として申し出を行いました。

今後、白川金色院と茶畑の里「白川地区」と、煎茶文化の発信地「黄檗地区」を順次申し出していく予定です。



白川の茶畑景観



▼中世から続く宇治橋通り

茶店舗が建ち並ぶ平等院表参道 ▲

◀茶畑の里 白川地区(申し出予定)

山紫水明 宇治川の四季 ▼



宇治川太閤堤跡全景(北から)



護岸遺構と庭園遺構 ▲

◀多様な護岸形態

- 上：自然の段差に水制
- 中：杭止め護岸
- 下：石積み護岸

▶庭園遺構 上段の池



様々な顔をのぞかせる 太閤堤

平成19年度に続き、史跡指定に向けた遺跡の範囲確認のため、宇治川右岸の「宇治川太閤堤跡」の発掘調査を行いました。

今年度は、昨年度確認した石積み護岸と杭止め護岸の中間地点と、杭止め護岸より南側(上流側)へ護岸がどのように続いているかの確認調査です。

中間地点(写真右上)では、護岸遺構のライン上に庭園が造られていることがわかりました。庭園遺構は、東側から流れ込む水を上下2段の池で受け止めています。

さらに上流側の護岸は、宇治川の流れが作りあげた自然の段差に、護岸にあたる水流を弱めるための施設、水制を造りつけています。

このように太閤堤は、様々な姿形を変えながら連続しているのです。

宇治川太閤堤跡の発掘調査